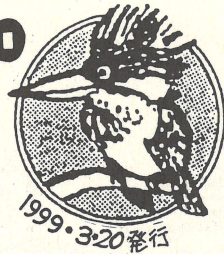


No.20



やませみ

天覧山・多峰主山の自然を守る会 会報



朝の霧の中から
うぐいすの唄が
花の密を待ちわびて
響くのを

昼のせせらぎの上を
せせらぎのいいおしゃべりが

屋の上を

おべりおちるのを



夜の林をぬけて
ふくろうが遠く
声をとぼすのを

私はきいています。

いつのまにか柔木の唄も

春の唄になるのです。

今号も7:くさのヒトの想いが
文字になって天覧山・多峰主山を守ります。

FROM EDITORS
編集室から



横浜の住宅街から引越して来て八か
月余り、四季にふれてこの里山のある
自然に感動している。横浜では広いニ
ュータウンの中で暮らしていた。十年
前までは、そこも小さな里山が点在し
ていて、今では全てアスファルトの中
の植木鉢のごとき公園が存在するだけ
になり、自然に触れようと思えばお金
をかけて準備して遠くへ出かけな
らなくていい。思えば、代わりに手
に入れた便利さもお金のかかるもの
だし、全てをお金とシステムの中
に組み込んでいく世界と言
うのも、うわべは生暖かくて居
心地が良く出来ていて、失ってしま
ったものに気づきにくくなってしま
っている。ニュータウンではやりのガ
ーディングで満足している人たちに、
毎日そこにある川のせせらぎや森の
香りがどんなものだったか思い出
して貰える日は来るのだろうか。

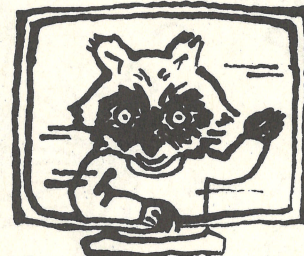
作田

県議選立候補予定
者に公開質問状

来る四月五日の県議会議員選挙には、
埼玉三区（飯能市・名栗村）より、3
名が立候補する予定です。そこで、守
る会は立候補予定の皆さんに対して「
公開質問状」という形で、天覧山・多
峰主山を含む奥武蔵の自然環境の保全
についてのお考えを伺いました。質問
内容は以下の5点です。
①飯能市街周辺の里山の保全について
②県の「飯能県民休養地計画」について
③天覧山・多峰主山の自然を残すため
のキーポイントである市道一八一号
線の保全について
④多峰主山南斜面に飯能市が計画して
いる道路について
⑤「立候補予定者のお話しを聞く会」
に出席していただけるか否か
期限までに3名全員から回答をいた
だき、⑤の質問には、全員出席して下
さるとの事で「立候補予定者のお話し
を聞く会」の実現する事となりました。
「三月二十八日、午後三時より中央公
民館2Fホールにて」市民の皆さんの
参加をお待ちしています。
立候補予定の3名の方々の回答は、
配布中の「やませみ号外」にて！

総会員募集集中！

現在、天覧山・多峰主山の北東地域に
は、西武鉄道による巨大団地計画があり
ます。「天覧山・多峰主山の自然を守る
会」は、計画の発表以後、署名運動や、
県や市に対する働きかけ、自然観察会、
会報「やませみ」の発行などを通してこ
の地域の自然を残すことを訴えてきまし
た。この団地計画に対する県の許可は、
まだ下りていません。緑豊かなふるさと
を守るのは、私たちひとりひとりの市
民です。まだ間に合います、どうぞあな
たも参加して下さい。
会費や手続きなど、詳しいことは事務
局までお問い合わせ下さい。また「やま
せみ」やお知らせなどは、谷口眼科・銀
河堂・Café裏にも置いてあります。



守る会のインターネットホームページ
アドレスです。

[http://www1.u-page.so-net.
ne.jp/yc4/akisato/index.html](http://www1.u-page.so-net.ne.jp/yc4/akisato/index.html)

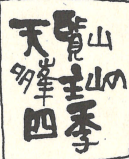
やませみ

発行日 / 1999年3月20日 編集・発行 / 天覧山・多峰主山の自然を守る会
事務局 / 浅野正敏 埼玉県飯能市柳町18-17 電話0429-74-1691 小冊子 0429-72-4602
編集局 / 早瀬あかね 電話0429-77-1890 (FAX兼) イラスト・レイアウト / 石岡由海



飯能市では、長年刊行してきた飯能市史「資料編」の後、昭和63年（1988年）2月総集編ともいふべき「通史編」を刊行した。今回はその中から、天覧山・多峯主山周辺の古い歴史にかかわる記事を抜き出して紹介する。

「飯能」の名前の由来について諸説を紹介している中で、「或は判乃（ハンノ）に作る……七党系図、丹党に判乃氏あり」また大陸からの渡来者があり（朝鮮語で大野（ハンナラ）、大川（ハンナイ）の意のいづれか）であるという説にも触れている。通史の中では紀元前三世紀ごろから紀元八世紀にかけて、主に朝鮮や中国から、多くの渡来者があり、また多く活躍したと紹介している。中でも、高麗郷は（地名からしても高麗本郷の名を残す、高麗川に沿った旧高麗村一帯の地域と推定され）るとしている。彼らは新知識を持って重用された者が多かったとして、高麗王若光・高倉朝臣福信・石麻呂・殿嗣などをあげている。時代は下って、戦国時代（源頼朝の挙兵から戦国時代末まで）以後、飯能周辺にも丹党、加治氏など多くの武士団が活躍した。（飯能における武人の創建にかかわる寺社は、智観寺と能仁寺がよく知られている）能仁寺は天覧山の麓にあり、「智観寺と同様、丹治氏に祖をおく中山勝家によって、文龜年間（一五〇一）一



国のレッドデータブック 見直しについて



環境庁では、平成七年度から専門家による検討会を設置し、平成三年版レッドデータブックの見直し作業を進めてきた結果、汽水・淡水魚類の中から亜種を含む評価対象種三百種の約四分の一に当たる七十六種が選定されました。今回の見直し作業の特徴は、新たに旧ランク外から四十九種が加わり、絶滅の恐れのある汽水・淡水魚類は旧版の二十二種から三倍以上に増加しています。

この中には、今まで普通に生息していると思われていたメダカやホトケドジョウといった身近な生き物も絶滅の恐れが増大していることが分かり、今回のレッドリストに掲載されることとなりました。

この中で、メダカは野生状態に於ける絶滅の危険が増大している種として、旧カテゴリーの危急種に当たる「絶滅危惧Ⅱ種」に揚げられ、ムツゴロウと同じレベルで評価されています。しかし、残念なことには多峯主山の雨乞い池に生息していたメダカは既に野生絶滅（現在泳いでいるメダカは人為的放流によるもので、他地域から移入された別個体です。）してしまった経緯があります。また、天覧山周辺で見られる

五〇三）に創建されたといわれる。とくに、代々が飯能地方の支配者としてかわりの深かった中山、黒田両家の菩提寺であった。（飯能地域に、歴史上もつとも大きな影響を及ぼした領主は黒田氏であった。この黒田氏の祖直邦は、すでに述べた丹党中山氏の裔、中山直張の三男として生まれたが……五代將軍綱吉以来、八代將軍吉宗まで四代、実に五十余年の長きにわたって仕え、老中にまで出世して……祖先の地、飯能を領したのは宝永四年（一七〇七）以降の事であるが、父とそれにちなむ先祖が眠り、遠祖が創建した能仁寺を中興している。そうして享保二十年（一七三五）七十歳で亡くなると、ゆかりの地である飯能の多峯主山に葬られたのである。）（二代直純以降の黒田氏（と）飯能の關係は初代直邦が通したまま踏襲されてきた。）と近世録の中にも能仁寺参詣の領主を迎えるための、飯能村の人々の準備や参詣の様子が残されている。黒田氏の墓地は、（今は名のみの）雨乞いの池の脇から階段を登ると参詣するこが出来る。天覧山・多峯主山とその周辺（今回は天覧山の名前の変遷に触れられなかったが、昔は羅漢山、さらに昔は愛宕山と呼ばれていたという）は、飯能の歴史に深く関わっているが、それも地域として、面とってあつてこそである。例えば、能仁寺を中心にしてみると、上には前記黒田家に関わる史跡。下には飯能河原のすぐ上から続く能仁寺の参道、というように古くからの歴史が現代まで続いているのである。（～）の中は、飯能市史からの引用

ホトケドジョウは近い将来に於ける絶滅の危険性が高い種として、旧カテゴリーの絶滅危惧種に当たる「絶滅危惧ⅠB類」としてメダカよりも更に上位にランクされ、北海道の湿原に生息するイトウと同じレベルで評価されています。

レッドリストに掲載された種について環境庁では、広く野生動植物の種の保存への理解を深めるとともに関係省庁や地方公共団体等にも各種計画等に於ける保全配慮の促進を図るとしています。また、検討に当たった分科会等では、これらの種が現在生息している環境は、数少ない残された良好な生息環境であると考えられることから、それらを評価・分析することにより、汽水・淡水魚類全般にわたる効果的な保護方策を検討することが期待されるとの意見も出されました。

レッドデータブックは野生生物の生息状況や生息環境の変化に対応するため、定期的な見直しが必要であることから、天覧山・多峯主山周辺の豊かな自然環境は、今後、更に正当な評価を受けることになるでしょう。

糟崎玉県生態保護協会 市川

自然と共に生きる

「里山とビオトープ」

♥ 曳地トシ&ハル

「自然」というと「手つかずのもの」を想像しがちだが、原生林のような人の手の及ばないスケールの大きな自然だけでなく、里山のように人間と共生してきた自然というのも、実はとても貴重なものだと思う。

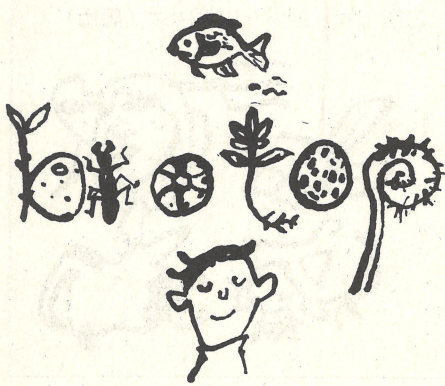
人々が石油に依存した生活となる以前、里山は各地に多く存在していた。枝打ち、下草刈り、落ち葉拾い、間伐、炭焼きなど人の手が入ってこそ、里山は里山たりえなし、人も身近な里山から自然の厳しさや懐の深さ、自然に対して謙虚に生きるすべなどを教わってきたように思う。

里山と同じく田んぼも昔は人と共生していく身近な自然だった。農薬や殺虫剤、化学肥料などをつかわなければ、田んぼにはプランクトン、ドジョウ、ヤゴ、カエル、タガメなどなど、様々な生き物たちが見事に生態系をえがいていけるのだ。

最近、私たちはビオトープというものに関心を寄せている。ドイツ語で、ビオは「生態系」、トープは「場所」を表す。どんなに小さな場所でも、多様な生き物が住み、生態系の鎖が断ち切れない空間があれば、それはビオトープという。早い話、庭の隅の小さな水鉢だって、ホテイアオイが浮かんでいて、プランクトンがいて、キンギョやメダカが泳いでいれば、それはもう立派なビオトープなのだ。

先日、東やつトラスト地を守る会のメンバーが集い、あぜ道作りに汗を流した。「不耕起の田んぼをやってみない？」「ハス池なんてどう？レンコンも食べられるよ」。作業をしていくうちに、みんなの中にそれぞれのイメージがふくらんできて笑顔がこぼれる。イメージはそれぞれでも、多様な生物の生息する場所を作りたいという気持ちは一緒だと思う。

「開発」という人間の手ではなく、「共生」という人間の手——そういう自然もあるのだということを提示していかれたらと思う。



「いろいろあることが大事なんだ。」

— 奥むさし環境講座に参加して —



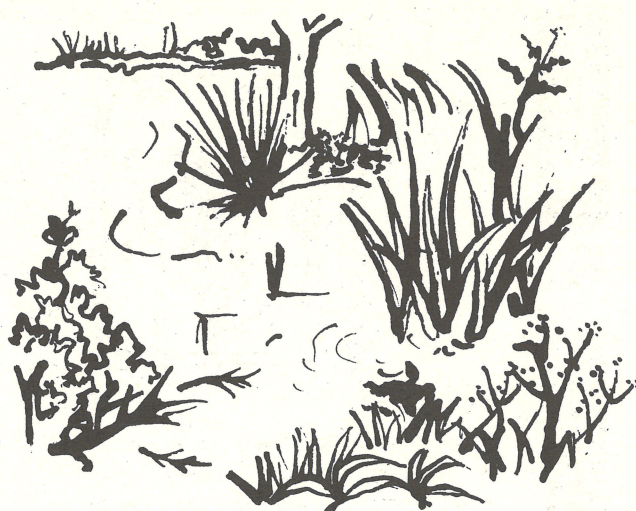
当日は、雪の降りそうな曇り空にもかかわらず、約90名という大勢の参加者で熱気ある中、駿河台大学の内田康夫先生のお話を伺いました。

お話しの中には「生物多様性」について、一言でいえば「ものすごくいろいろなものがたくさんあること」として「一つ一つが、それぞれ皆、他と異なっていること」だそうです。人間、一人一人顔も性格も違う様に、内蔵まで違い、だから同じ病気でも治り方まで違うとの事。その代替不可能性から、生命の大切さ、個性の尊重も生まれてくるというお話には、成る程と納得しました。

現在、地球上には判っているだけで一四〇万種の生物がいるそうですが、実際には一〇〇〇万種以上いるだろうと言われているとの事。その一種の中でさえ個々が違うのですから、その多様性たるや天文学的数字になります。

生態系の多様性から見ると、太陽光エネルギーが多く、降雨量が多い程多様性は高い。つまり高温多湿地帯（ジャングル）程、多様性が高く、低温乾燥地帯（ツンドラ・砂漠）程、低いそうです。私達が美しいと感じるアルプス、ヨーロッパの自然は、多様性指数から言えば日本よりずっと低く「きれいな」と「豊かな」は違うのだと知りました。

日本の伝統的農村地帯は生物多様性の観点から言うと、原生林に勝るとも劣らないとの事です。レッドデータブックの絶滅危惧種の多くは、伝統的農村地帯での普通種であるというお話しには驚きました。一方、米国式大農法は多様性が低く、害虫発生による農薬多用、土地の荒廃、放棄へとつながるの事でした。そして食べ物を市場経済的観点からだけ捉える事は21世紀に向けて、大変な愚策であると述べられました。



GNPの大きい事がいい事ではなくて、生物多様性の高い事が一番の価値なんだと価値観を変えてみるべき……というお話しに、本当にそうできたら今の社会の様々な問題も解決していけるのではないかと思います。ちなみに、一九九二年の地球サミットで「生物多様性条約」が可決され、国連加盟国のほとんどである一七〇ヶ国が批准したにもかかわらず、あの超大国アメリカは批准していない。こと環境問題に関しては、悪魔的な国であると批判されました。人間にとって一番価値あるものは「食べ物」で、正義も真理も、愛も文化も科学も、人間が健康に生きていて初めてある事というお話しには、改めてその通りだと気づかされました。質疑応答の時間がたっぷりあり、観客の違う質問に答えられるお話しが、また興味深いものでした。第二回も内田先生のお話しが聞けるそうで楽しみにしています。講演会参加者

飯能県民休養良地の生い立ち

●原点は市民の緑と清流への願い



現在、県の手で進められている県民休養地の基本構想は、今年度中に出来る予定である。この計画は昭和五十七年に、やはり県によって作られた整備計画に基づいて進められているという。県民休養地構想は、県内の適地に自然とのふれあいを求める県民の声の高まりの中から、県立自然公園の利用拠点として事業化されたものだ。天覧山・多摩山周辺がその一つに選ばれたのも、当時の乱開発の波の中で、飯能市民による大きな環境保全の声が上っていたからである。

この休養地計画の前に、飯能市による市民公園構想が作られたが（昭和五十五年）、これこそ天覧山付近の自然を守る会が、市主催の「市民公園基本計画を聞く会」に出した「提言」を基本として作られたものだった。内容は「まさか、こんなにも意見が取り入れられようとは、想像さえできなかった」と、当時の記録書に表現された程、市民の意見をベースにしていた。

市民公園への提言の主要点をピックアップしてみると、その基本姿勢では、「市街地を環状にとりまわす緑の歩道づくりまで考えてほしい」「単なる点と点を結ぶだけでなく面としての広がり確保する」と言い、具体的提言で、
◎市民会館を公園内の中心地域に
◎天覧入りを、ホテルの里として保全する

◎南西に広がる緑地帯を根本的に壊滅する道路（現在の学校と、その道路計画に当たるもの）は絶対にこの地域を通さないで欲しい
◎神久山周辺に郷土館を中心とした、「歴史の里」を作りたい
◎飯能河原の保全
◎朝日山付近の自然保護の提言
◎特別項目Ⅱ機構、及び運営上の要望で、設計立案段階から完成後の運営にいたるまで、市民が直接かつ随時発言、提案できるように機構の早期設置をはかる。（以上、記録からの要約）といった内容が示されていたのであった。この提言を出発点として、市民公園から県民休養地へと計画は発展してゆき、休眠状態を経ながらも、天覧山展望園地、多摩山ツツジ園、割岩橋、市民会館、郷土館などが、部分的に実現できた。

現在飯能市は今後、県が策定してゆく県民休養地計画に対して、その実施要綱で推進協議会を設置して、意見を提出するよう義務づけられている。この協議会には、先の市民提言書や休養地自然調査報告書でも、最重要課題とされている、市民参加型の運営を実現していくって欲しいものである。

早瀬

飯能県民休養地について 埼玉県庁と飯能市役所 行って来ました。



◆平成11年1月21日、県自然保護課にて
飯能県民休養地については、県としてコンサルタントに基本構想の見直しを依頼しており、本年度中（3月中）に、まとまる予定との事でした。内容としては、大まかな方針（理念）を決めるもので、それを踏まえて今後、具体的に進めて行く事になるそうです。その際、従来の行政主導型は避け、市民参加型の進め方を模索していければと話し合いました。
◆平成11年3月4日 飯能市商工観光課にて
飯能市の担当が、商工観光課であり、自然保護というより観光に視点が置かれているのだという事にまず驚きました。「県民休養地事業実施要綱」により、市は県民休養地推進協議会を設置するとなっていますが、その会長には市長が、理事には観光協会会長、県自然保護課長などといった錚々たるメンバーによって構成される規定である事にも驚かされました。現在のところ、協議すべき具体的な内容が何もないので協議会は開く状況にない、との担当課長さんのお話しに対して「市民公募による協議会のための準備会をつくり、そこで時間をかけて下構想を練ったかどうか」「講演会、勉強会を開いて市民の関心を集め、そこでも参加者を募ったかどうか」といった市民参加型を提案しました。

浅野

INFORMATION

おでかけください。

第二回 奥むさし環境講座 「正しく知る。環境ホルモン」

物があふれる現代の暮らしにだけど、このままではいけないかな？



日曜日ふるさと散歩

- ◎四月十一日（日）「里山・お花見・ヨモギ摘み」の巻 東やつで、雑木林に囲まれてのお花見です。え？？花より団子ですか？
- ◎集合 能仁寺山門前午前九時半
- ◆参加費 保険料（任意）百円
- ◆持ち物 お弁当・山歩き用の服装
- ◎五月九日（日）「里山まつり」
- ◎六月十三日（日）九時半より「夏鳥の声を聞きながら……」の巻
- ◎六月二十六日（土）夕方六時半より「ほーほーほーたる来い」の巻

おまちで。

第三回 里山まつり
5月9日（日）
天覧山にて
午前10時より
（ステージは午後1時より）
入場無料

今年、自由の森学園生徒さんたちによる郷土芸能舞、二人芝居「劇団あまぐれ座」による宮沢賢治の世界、山崎マコト君のアフリカの大地と風を呼ぶ歌をお届けします。マイクなどは一切使わず、ノン・エレクトロニックで自然と共生できるステージを目指していますので、ぜひきてねー！

「I LOVE 憲法」 ミュージカル「アルカディア ニニは私の理想郷」

◎五月二十三日（日）午後三時開演
飯能市市民会館大ホール ※保育あり
大人 二、五〇〇円
高校生以下 一、五〇〇円
日常生活の中で、もっと身近に憲法について考えてみたい、そんな思いを表現した楽しいミュージカルです。昨年の「ムツゴロウのラブソング」に引き続き今年も、守る会はこの講演を応援します。今回のテーマは「循環できる暮らし」。所沢と三芳町に広がる三富新田に暮らす農家の方の目を通して、物にあふれる現代の暮らしを見つめ直し、未来への責任について楽しく、真剣に問いかけます。ぜひご家族でお出掛けください。
問い合わせへわいわいアルカディア99
〇四二九一七二一三八五九（黒住）

